

Column

アベノミクス  
「新・三本の矢」は、  
男女共同参画でこそ  
実現される。



吉田 浩  
経済学研究科 教授

昨年9月、アベノミクスの第二弾として、新・三本の矢が公表された。その内容は、①2020年までに名目GDP(国内総生産)を600兆円にすること、②希望出生率1.8を実現すること、そして③家族の介護のために離職しなければならない人をゼロとすることの3つであった。このうち、②と③は明らかにワークライフバランスの実現によって実現されなければならないものである。すなわち、仕事と子育ての両立であり、また女性を中心になされている家族介護の現状を改めることである。

また、GDP600兆円についても、女性の就業の促進なしには達成できない。なぜならば、現在の日本のGDPは名目で490兆円余りであり、これをあと5年で600兆円にするためには、年率名目で3.4%の成長を5年連続で続けなければならない。2012年は1947年からのベビーブーマーが65歳を迎えた年であり、2014年までの3年間に毎年100万人ずつの労働者の退職があった。これを、補うためには生産性の高い能力のある女性が企業社会でなお一層活躍することが求められる。

以上のことを考えると、アベノミクス新・三本の矢は男女共同参画社会の実現なくしては実現できないのである。したがって、男女共同参画社会の実現は、もはや国家の成長と国民の幸福をかけた重大なプロジェクトである。このため、義務だから仕方なく目標まではやるという後ろ向きの姿勢だけではなく、いかにより多くより早く達成して、成果を享受するかという戦略的な視点が必要なのである。

Science Angel

(2016年1月1日現在)

平成27年度 サイエンス・エンジェル活動実績

- 6/23(火) 出張セミナー 秋田県立秋田南高等学校
- 6/29(月)-7/6(月) サイエンス・エンジェルスキルアップ講習会(全2回)
- 7/19(日) 「学都仙台・宮城サイエンスデイ2015」への出展
- 7/29(水)-30(木) オープンキャンパスfor女子高校生2015
- 8/1(土)-2(日) 国立科学博物館「サイエンススクエア2015」への出展
- 8/19(水) 出張セミナー 山形県立山形北高等学校
- 8/21(金) 「楽しい理科のはなし～不思議の箱を開けよう～」への出展
- 9/4(金) 出張セミナー 茨城県立竜ヶ崎第一高等学校
- 9/24(木) 出張セミナー 鳥取県立倉吉東高等学校
- 10/10(土)-11(日) 片平まつりへの出展 特別企画  
「サイエンス・エンジェルと話そう!～女子の視点から見た理系の学び～」  
「みやぎサイエンスフェスタ」への出展  
「サイエンスアゴラ2015」への出展
- 11/14(土) 出張セミナー 宮城県石巻西高等学校
- 11/14(土)-15(日) 「サイエンスアゴラ2015」への出展
- 11/20(金) 出張セミナー 山形県立山形西高等学校
- 11/21(土) 出張セミナー 宮城県宮城第一高等学校
- 12/4(金) 出張セミナー 山形県立山形東高等学校
- 1/30(土) 出張セミナー 青森県立三本木高等学校
- 2/15(月) 出張セミナー 平成27年度サイエンス・エンジェル活動報告会
- 3/5(土) 出張セミナー 仙台白百合学園中学・高等学校 ※1月以降は予定
- 3/9(水)

Report of the Seminar

「第1回 TUMUG Forum」  
(女性研究者研究発表・交流会)の開催



11月24日に本学女性研究者の研究発信および異分野間の人的ネットワーク形成促進を目的として女性研究者による研究発表・交流の場「第1回 TUMUG Forum」を開催しました(共催:工学系女性研究者育成支援推進室(ALicE)、工学研究科、医工学研究科、高度教養教育・学生支援機構)。2部構成とし、それぞれ沢柳フェローを座長におき、本学に着任5年以内の女性研究者4名が自らの研究を分かりやすく発表しました。発表者と参加者との間で活発な質疑応答が行われ、研究発表に対する関心の高さがうかがわれました。

発表会終了後には、ALicEの休養室および託児室を見学しました。また、ALicEとの共催により、発表者4名を囲んで交流会(第3回沢柳フェロー茶話会)を実施し、研究環境や子育て経験、学会等での男女共同参画について、意見や情報を交換しました。

【開催日】 2015年11月24日(火) 13:00-15:30  
【会場】 青葉記念会館4階会議室  
【参加した沢柳フェロー(50首順、所属部局省略)】末松和子教授、田中真美教授  
【参加者】 26名



セミナー後の交流会の様子

Information

子育て中の休業制度について

お子さんが3歳になるまで期間を定めて休業できる育児休業。東北大学では、毎年100名近く出産する教職員がいますが、ここ数年はそのうち約9割が育児休業を取得しています。男性取得者も毎年います。

なお、お子さんが小学校に就学するまでは、以下の2つの制度が利用できます。いずれも教職員とも利用が可能ですので必要に応じて利用を検討ください。

- 育児短時間勤務  
1週間あたり20時間～25時間の範囲内で勤務することができます。
- 育児部分休業  
始業あるいは終業の時刻までの連続する時間帯において1日2時間以内まで休業できる。

詳しくは、所属部局の担当者にお問い合わせください。  
人事企画部のホームページ(学内限定)には「子育てを行う職員への支援制度一覧」等、役に立つ情報が整理して提供されています。



2016  
VOL. 5

「TUMUG」とは「Tohoku University(東北大学)」「Movement(運動、活動)」「United(団結、協力)」「Gender(ジェンダー、男女)」からなる頭字語(アクロニム)。東北大学が「紡ぐ」男女共同参画の取組が、ムーブメントとして拡がっていくことを目指しています。



第12回東北大学男女共同参画シンポジウム

- TOPICS
- 01 サイエンス・エンジェル(SA)の活動  
▶ サイエンスアゴラ2015にて「KADOKAWA賞」受賞  
▶ 活動報告会開催のご案内
  - 02 ▶ 平成28年度 TUMUG支援事業募集のお知らせ
  - 03 ▶ 第12回東北大学男女共同参画シンポジウム「科学とジェンダー」開催
  - 04 ▶ コラム:吉田 浩教授

Science Angel Information



サイエンス・エンジェル(SA)の活動

サイエンスアゴラ2015にて  
「KADOKAWA賞」受賞



2015年11月14日・15日に東京で開催された日本最大級の科学フォーラム「サイエンスアゴラ2015 つくろう、科学とともにある社会」(主催:国立研究開発法人科学技術振興機構)に出展し、理系女子に関して語り合う座談会を2日間にわたり計4回実施しました。「サイエンス・エンジェルと語ろう 理系女子の現在・過去・未来」と名付けられた座談会には、大学生・大学院生を中心に、大学・学校関係者、公務員、マスコミ、産業界、さらには保護者の方々が多数参加し、「女性であるために困ること」、「理系女子」と言われることについての思い、「理系女子を増やすために必要なこと」といった話題について1時間余り語り合いました。なお、座談会は協賛している株式会社KADOKAWAより「KADOKAWA賞」を受賞しました。



活動報告会開催のご案内

入場無料・事前申込不要  
どなたでもご参加いただけます!

来る3月5日、「平成27年度サイエンス・エンジェル活動報告会」を開催します。中学校や高等学校での出張セミナーや体験型科学イベントを行っている理系女子大学院生であるSAがそれぞれの活動について報告します。また、SA修了者によるトークや本学と同様のプログラムを実施している名古屋大学の事例紹介もあります。男女を問わず、皆様のご参加をお待ちしております。

【日時】 2016年3月5日(土) 13:30-15:30  
【場所】 片平北門会館2Fエスパス ※詳細は本センターのホームページをご覧ください。



**東北大学男女共同参画推進センター**  
Tohoku University Center for Gender Equality Promotion

TEL 022-217-6092

〒980-8577 宮城県仙台市青葉区片平2-1-1  
E-mail tumug@morihime.tohoku.ac.jp HP www.morihime.tohoku.ac.jp



## 平成28年度 TUMUG支援事業募集のお知らせ

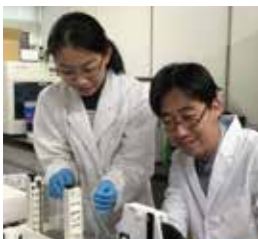
男女共同参画委員会が実施する平成28年度TUMUG支援事業(男女共同参画・女性研究者支援事業)の募集がはじまりました。平成28年度より、両立支援プログラムは対象範囲が広がりましたので、公募要領をご確認の上、是非ご応募ください。

※プログラムによって対象と締切が異なります。各部署での締切にご注意ください。  
※詳細は男女共同参画委員会のホームページをご覧ください。

お問い合わせ先／総務企画部総務課総務係 TEL 022-217-4811

両立支援 ～男性も対象～	女性リーダー育成	次世代育成
<b>研究支援要員</b> (募集)A型:6名程度 B型:若干名 <b>内容</b> A型:研究支援要員雇用のために必要な人件費の補助(上限100万円) B型:大学から事務補佐員を派遣(週1～2日) <b>対象者</b> 出産・育児・介護を行う教員・技術職員 <b>本部締切</b> 2月15日	<b>リーダー研究支援要員</b> (募集)若干名 <b>内容</b> 大学から事務補佐員を派遣(週1～2日) <b>対象者</b> 国の審議会委員等の要職に就く女性教員 <b>本部締切</b> 2月15日 <b>スタートアップ研究費</b> (募集)5名程度 <b>内容</b> 1年目100万円、2年目50万円の研究費を支援 <b>対象者</b> 新規採用の女性教員(助教以上) <b>本部締切</b> 7月11日 <b>研究スキルアップ経費</b> (募集)10名程度 <b>内容</b> 会議・シンポジウム等の旅費支援(海外:上限30万円、国内:上限15万円) <b>対象者</b> 女性教員(准教授、講師、助教) <b>本部締切</b> 第1回 4月11日 第2回 10月上旬	<b>サイエンス・エンジェル</b> (募集)40名程度 <b>内容</b> 高校等での出張セミナー、オープンキャンパス、科学イベント企画・実施 <b>対象者</b> 自然科学系部局に所属する大学院女子学生 <b>本部締切</b> 第1回 3月20日 第2回 5月1日 <b>仙台Iゾンクラブ 東北大学大学院女子学生 海外渡航支援</b> (募集)2名程度 <b>内容</b> 海外で開催される会議・シンポジウム等の旅費支援(上限15万円) <b>対象者</b> 大学院女子学生 <b>本部締切</b> 6月頃 ※詳細は5月に通知予定
<b>ベビーシッター利用料等補助</b> (募集)20名程度 <b>内容</b> 研究、講義、出張時のベビーシッター利用料等の補助(上限5万円/半期) <b>対象者</b> 育児を行う教員、技術職員、ポスドク、博士学生等 <b>本部締切</b> 第1回 2月15日 第2回 9月中旬		

## [ 利用者の声 ]



研究支援要員と作業中の女性研究者(環境科学研究科所属)

●自身で研究を立案し、実行することはとても楽しくやりがいがある仕事です。しかし、研究、臨床、育児はいずれも非常に手間がかかり、一握りのスーパーウーマンを除いて、現実的に両立は困難です。現在は、本制度により採用させていただいた優秀な研究支援要員にお手伝いいただき、一人では実現が難しかった臨床研究の推進や国際学会での発表などの貴重な経験をしており、研究のさらなる発展へと夢を膨らませています。(病院所属/研究支援要員制度を利用)

●私は、スタートアップ研究費制度に採用して頂き、昨年度からご支援して頂きました。本学に学生として在籍しているころから、男女共同参画推進センターの活動に興味があり、本制度を利用した先生方からの勧めもありまして、本制度に応募させて頂きました。本制度は、採用されたばかりの新人教員を対象にしており、新人教員が取得できる研究資金の中でもこのような潤沢な支援制度はなかなかないと思います。2年間に渡る支援をして頂けるので研究テーマの基盤となる研究を十分に行うことができます。今後も本制度を継続して頂き、少しでも多くの女性研究者が東北大学でキャリア形成できるよう応援しています。(生命科学研究所/スタートアップ研究費を利用)

●当初、予定していなかった学会での講演が入り、赤字覚悟で引き受けましたが、研究スキルアップ経費から旅費を出していただけて大変助かりました。また時間がなかったにもかかわらず、いろいろと柔軟に対応していただき、どうもありがとうございました。(文学研究所/研究スキルアップ経費を利用)



支援を受け発表する女性研究者(農学研究科所属)

## Event Information

### 多元物質科学研究所シンポジウム 開催のご案内

日 時:2016年2月23日(火)15:00-17:00

場 所:片平キャンパス 南総合研究棟2(材料・物性総合研究棟1)大会議室

講演「前例をつくり、道をつくる」(仮題) 講師:森 郁恵氏(名古屋大学大学院理学研究科 教授)

講演の後、パネルディスカッション～女性教員採用に向けたシステムづくり～を、大隅 典子教授(医学系研究科/副センター長)と杉本 亜砂子教授(生命科学研究所)をパネリストにお迎えして行います。

## Activities

### センター関係者による学外での活動状況

(2015年10月～12月)

2015年12月7日

東京医科歯科大学 キックオフ・シンポジウム  
基調講演「女性研究者とダイバーシティ」  
(大隅典子(副センター長))

## 第12回東北大学 男女共同参画シンポジウム 「科学とジェンダー」開催

11月21日に星陵キャンパス医学部開設百周年記念ホールにおいて、第12回東北大学男女共同参画シンポジウム「科学とジェンダー」が開催されました(主催:男女共同参画委員会)。当日は、文部科学省研究振興局長の小松弥生氏から来賓のご挨拶をいただいた後、澤柳記念賞受賞者である大坪久子氏(日本大学 薬学部薬学研究所 上席研究員)と中野享香氏(新大 Wits代表 新潟大学男女共同参画推進室 准教授)にご講演頂きました。その後の特別講演では、小川眞里子氏(三重大学 名誉教授)が「近代科学の歴史とジェンダー」、柘植あづみ氏(明治学院大学社会学部社会学科 教授)が「男女共同参画は科学と高等教育をいかに変革できるか」について興味深い講演をされました。

また、男女共同参画委員会副委員長でもある田中真美教授(副センター長)が、本学の女性研究者育成支援制度をはじめとする男女共同参画の取組について説明し、支援を受けている女性研究者18名がポスター発表を行いました。

里見進総長ならびに植木俊哉理事(センター長)、男女共同参画委員会委員、学内外の皆様、約120名にご参加いただきました。



総長 里見 進



小松 弥生 氏



大坪 久子 氏



中野 享香 氏



小川 眞里子 氏



柘植 あづみ 氏

## [ 学内での動き ]

### 医学系研究科 男女共同参画推進委員会の取組

医学系研究科男女共同参画推進委員会は、平成27年に医学部が創立100周年を迎えた機会に記念事業として東北大学大学院医学系研究科女子大学院生奨励賞を設置しましたので、ご報告いたします。

東北大学医学部は、東北大学の「門戸開放」の理念のもと昭和の初期から女子を入学者として受け入れ、女性医師/女性研究者を輩出してきました。しかしながら、現在、医学系研究科の大学院生に占める女子学生の割合は約30%であり、依然として性別比の偏りが続き、女性教員になると職位が上がるにつれて女性比率が極端に低くなります。

このような状況の中、優秀な女子大学院生が自信を持ち、諦めることなく研究者キャリアの道を進むことを奨励し、医学・医療等の分野で活躍する女性リーダー育成の一翼を担うことを目的として、この賞を設置しました。

この賞の受賞人数は最大3名で、受賞者には、医学部の同窓会である長陵同窓会から副賞が授与されることになっております。また、授賞式及び授賞記念講演は、毎年5月に開催される長陵同窓会総会にて執り行います。

(男女共同参画委員会委員 朝倉京子教授)

医学系研究科女子大学院生奨励賞にご関心のある方は、  
医学系研究科男女共同参画推進委員会(医学部総務課総務係 TEL 022-717-8006)  
までお問い合わせください。

### 農学研究科における男女共同参画の取組

農学研究科では平成25年度に、全学の行動指針にそって、農学研究科としての姿勢や方向性(部局内指針)を表明しました。その一環として農学研究科では、毎年教職員研修のテーマに男女共同参画を掲げて意識の醸成を図っております。また今年度から新たな取組として、女性研究者のロールモデルを紹介する講演会を研究科の男女共同参画委員会が企画し、開催しました。技術職員においても独自の取組として男女共同参画に関する講演会を予定しております。全学制度を参考に情報窓口を設置し、ポスターを作成しました。これらの取組は今後も続けていく予定です。平成28年度には農学研究科は青葉山へ移転します。両立支援のための環境整備として保育園の設置が順調に進むことを祈っております。女性研究者が切り開く明日を信じて、その支援を大学のトップが決断していることは東北大学が世界へ躍進することに通じるといえます。

(男女共同参画委員会委員 磯貝恵美子教授)

2015年12月11日  
農学研究科男女共同参画委員会が講演会を開催



須田桃子氏(毎日新聞東京本社 科学環境部)による講演の様子

